

直美さんがレビーであり、レビーでなければならない理由は、「使命」

レビー小体型認知症介護家族おしゃべり会ネットワーク・リーダー
加畑裕美子

直美さん、あの日、舞台裏であなたの細い肩をそっと撫でたとき、「だいじょうぶよ」と言った私、私自身が震えていたんです。

それからもう8ヶ月。ひとりでできるから、「だいじょうぶ」というたびに私はほんとうに胸が痛み、辛かった。

どんなに精神力でがんばっても、からだがいうことをきいてくれないレビーです。どれだけ気をはって、会場に向かうのだろうか。前日は眠れたのだろうか。

時には主催者がほんとうにレビーを理解しているだろうかとか、余計な心配をしたりしました。「だいじょうぶですか？」と言われても「だいじょうぶです」と答えるのは、「気遣いができるレビーのみんながそうだ」と知っているのもっともっと辛くなる私でした。

父の具合が悪かったときのことがしっかり蘇ってきて、電車の中で、貧血おこしていないだろうか、頭痛に苛まれていないだろうか。

ところが会場に立つあなたは、この人生で一番というくらい、光り輝き、あのほんとうに素敵な笑顔をいつも見せてくれました。

本を上梓されたあとは、もっともっと力強くなって、素敵。

今日のWEB 授業拝見して、直美さんがレビーであり、レビーでなければならない理由は「使命」であると思いました。

あなたの声が聞こえてきます。「ちがいますよ～、なりたくてなったわけじゃないのに（笑）」って。

新たな人々との出会いが、直美さんを大きく支えて、そして直美さんの持っている人間性とその力を思う存分引き出し、直美さんの思いを含めて、レビーを知らない多くの方に届くようにしていただきました。

ほんとうに素晴らしいことだと思っています。

あなたとのメールのやりとりがものすごい数であったのを今頃気付いたの。その中であなたに励まされているシーンがいっぱいあります。

それを今ふたたび読んで、同志として、がんばらなくちゃと心に誓いました。
こころもとない同志ですけど、そばにいさせてくださいね。

直美さん、私がいつ見せていただいたのか、
息子さんの結婚式のご家族でとった写真が
私一番好きです。
あの安心した笑顔と母の顔。

「だいじょうぶですから」
あなたの声を聞きながら、私も別の会場でレビーの方々に届けていきます、こ
のことは。今を大切にしながら、ね。

あなたの笑顔。
お母様の笑顔にそっくり。

P.S.

という私も直美さんがレビーであることをしつつい忘れて、頼ったり、
余計な話もしたり、いつもごめんなさい。
あ、ストレス与えちゃった！と反省してます。
体調コントロール、ひとりで無理な時は手伝います～。
ミュージカルにでも行きましょうか。